

# どんぐり工房だより

〒284-0005 四街道市四街道 1-6-11 田中ビル3階 TEL&FAX043-421-6645

E-mail:kibou\_donguri@ninus.ocn.ne.jp HP:http://kibou-donguri.org



## 「猫ちぐら」

## お買い上げ

## 有難うございます

i c o b a 四街道 1 丁  
目で開催させていただ  
いた「どんぐり工房フ  
エア」でご注文を戴い  
た「猫ちぐら」。

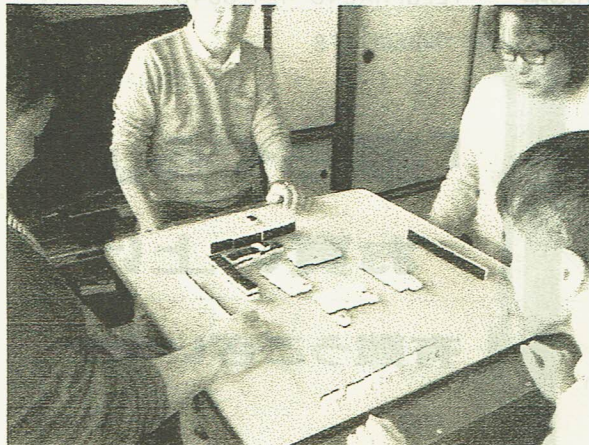
ご注文主の野口様に制作担当の高宮さんがお届けしました。野口様は「有難う、大切につかわせていただきます」と仰って下さいました。どんぐり工房の「猫ちぐら」は各方面で話題になっています。(写真は左が高宮さん 右はご注文主野口さん)

## 布製のマスクを作って大好評で販売しています

昨今コロナウイルス対策でマスクの需要が多く、店頭にも無くなって問題になっています。どんぐり工房では、作業にマスクが必需品です。そこで、みんなで「手作りのマスクを」と作り始めました。これが街の人々にも知られるところとなり、譲って欲しいという要望が寄せられるようになりました。市役所販売でも売りに出したところ毎回完売という人気。もっとも100円という手ごろな値段ですから、家族分10枚まとめ買いという人もいます。思わぬところでビジネスチャンスが訪れたわけですが、こんな機会は二度と来てほしくないと言いながらマスク作りに追われているどんぐり工房です。

## どんぐり工房の楽しい昼休み

近頃のどんぐり工房のお昼休みの光景です。午前中の作業が済み  
昼食も終えてほっと一息、気分転換にゲームに興じるメンバーさん  
たち。麻雀は、はじめは並べ方も知らない人にルールを教えあって



どうにかゲームが成立するよう  
になりました。



オセロゲームは、子どもの頃から  
やり慣れたメンバーさんが多く、  
毎日の対戦は強い相手に挑戦し  
て行く人で熱気があふれます。  
どんぐり工房でのこれも楽しい  
ひと時です。



### 「福祉関係機関連絡会」が 多くの団体を結集して設立されました

2月16日(日)千代田公民館において、  
「四街道市福祉関係機関連絡会」の設立総会が  
開かれました。どんぐり工房とグループホーム  
「だんらん」もこの連絡会に参画します。  
同じ地域の福祉に携わる団体・事業者が情報を  
交換しあい、共通する課題と一緒に取り組もう  
という趣旨で設立されたものです。この日は  
「共生社会の実現に向けて」というテーマで設  
立記念講演が高梨憲司氏を講師として行われ、  
出席者に感銘を与えました。



投稿

短歌

小林 修

体調が悪くなっても 通院を  
ためらうほどの コロナの恐怖

いちごアイスあつという間に  
平らげて 隣のアイスに目をつける母

お友達に母の旅立ち知らせ難く  
母を送り お電話を待つ

「あいつの夢のコーナー」

暗い部屋

診療所の待合室

人生の吹きだまり

裸電球が垂れさがっていた

人体模型の腹わたが浮き上がる

「隣町から

来なさつとるのかね

気の毒に」

「町というほどではありませんが」

俺たちは明るい場所にいるだろうか

「お天道様の下で働ける

それだけで結構じゃないか」

知り合いなら言いそうなことだ

「今度はいつになりますか」

「来月で良いよ

遠くから来ていなさつとるから」

俺たちは生きています

一生懸命に

なぜ吹きだまりと感じたか

夜のせいか

いや

因縁だ

この世の 人間の

「さて、帰るか」

帰るのも大変だが

(丁)

いつ終わる

新型コロナ

待ち遠し

(心)

地元の人 九二回

(地元の人:A アナウンス:B)

B「労働に睡眠は必要ではない、工場の仕事に就いてから数日間寝不足に悩まされた、眠らないのではなく眠れないのです、学生であった頃の実験とは事情が違う、あの時は眠ろうとはしなかったが今は眠れない、睡眠の不足がいかに恐ろしいかを身をもって体験したのです、飯は喰っていません、飯は喰っていません、飯は喰っていません、二時間程度の睡眠では体が持たない、疲れが出始めておりました、それでも二週間は我慢しました、どうしても眠れない、そこで酒を飲んでみれば、と考えたのです、粗末な茶碗に二杯の日本酒を飲みました、どうせ飲むなら高級なものを飲みたいと考え、今でならコンビニでも呼ぶような小さな店で買い求めました、少しは酔えた、学生の頃一時期大酒を飲んでいましたからそれに比べれば軽いものです、ただ酔いを次の日に残せない、仕事をこなさなければならぬ、ですから気分を味わってみました、それで眠れたら私にとって都合がよい、酒を仰ぎ布団の上で横になった、少し酔いました、がいつこうに眠れない、時間がたてばたつほど目が覚めてくる、枕もとの時計を見ては舌打ちしました、明け方になってようやく失神するように眠りに落ちました、二時

間だけです、結局眠れたのは、七時まぎわに飛び起き顔を洗い口を漱ぎ慌てて送迎バスに乗りこみました、これではたまらないと上司に訊ねてみました、眠れないと、ですがとなりにいた責任者は、俺なんか三ヶ月眠れなかったことがある、二時間でも眠れりゃいいほうだということです、次の日私はたまらず逃げました、家に帰ってしまったのです、家族から会社を辞めたらどうやって飯を喰うんだと説得されました、翌日兄に送られ、幸い勤め先が近くでした、それ以降の五年間一日たりとも休むことはありませんでした、眠れないという事情は相変わらず続きましたけれど、若かったころでしたから身体がもったのでしよう、ですが二年もたつてから心理に違和感が生じ、抵抗なく精神科を訪ねたのです、工場内で誰かは分かりませんが服薬する姿を見ていたからです、ただ病院へ行ってもうまく説明がつかない、私自身でさえはつきり知ったところではありませんでした、睡眠薬もあるとの事でしたがそれは無理だと断るしかない、朝早くから夜遅くまで続く仕事でした、そこで安定剤を出されました、薬が効くのかどうかも知らず…どうやら軽い神経症と判断されたようです、入社して三年ほどたつても状態は酷くなる一方でした」

(丁)